

## 北朝鮮への圧力 米で相次ぎ要請

日本の与野党議員

【ワシントン田中伸幸】

緊迫化する北朝鮮情勢を受け、日本の与野党議員が相次ぎワシントンを訪れ、米政府や議会関係者らと面会。北朝鮮の核・ミサイル開発を断念させ拉致問題の解決を図るため、日米による圧力強化の必要性を訴えた。

自民党の河井克行総裁外交特別補佐は13日、ワシントンで開かれた東アジア安全保障の専門家らが参加した会合で講演。私案と断つた上で、自衛隊による中距離弾道ミサイル保有の検討や、高速で滑空して目標を攻撃する「島しよ防衛用高速滑空弾」の研究開発加速などを提案し、日本固有の攻撃能力強化の検討について理解を求めた。

記者会見した河井氏は、

中距離弾道ミサイル保有に関して、会談した議員らから賛同を得たと述べた。

一方、北朝鮮による拉致問題を巡り、超党派の「拉致救出議員連盟」は同日、ワシントンで記者会見し、米政府に対して北朝鮮を「テロ支援国家」に再指定するよう要請したことを明

らかにした。

議連の山谷えり子会長代行によると、面会した米国家安全保障会議(NSC)

幹部は「トランプ大統領が安倍晋三首相から拉致問題の説明を受け、人権問題を調査するよう指示した」と説明。テロ支援国家再指定について「活発に議論している」と述べたという。